

四條畷市総合教育会議（令和5年度第2回）

会議録

四 條 畷 市

1 令和6年1月31日 午後1時 四條畷市役所東別館302会議室において、四條畷市総合教育会議を開催する。

2 出席者

市	長	東	修平
教育長職務代理者		山本	博資
教育委員		佃	千春
教育委員		河田	文
教育委員		尾崎	靖二

欠席者

教育長	植田	篤司
-----	----	----

3 事務局出席者

総合政策部長	西尾	佳岐
教育部長	阪本	武郎
教育部次長	花岡	純
兼学校教育課長		
教育部副参事	賀藤	久道
兼学校給食センター所長		
教育総務課長	古市	靖之
教育総務課長代理兼主任	木邨	勇貴
秘書政策課長	板谷	ひと美

4 会議録作成者

秘書政策課長	板谷	ひと美
--------	----	-----

5 案件

- (1) 四條畷市学校施設整備方針について
- (2) その他

<p>総合政策部長</p>	<p>それでは定刻になりましたので、令和5年度第2回四條畷市総合教育会議を開催させていただきます。</p> <p>本日は、教育長が体調不良により急遽、ご欠席となっております。教育委員会と相談のうえ、本日は山本職務代理者に教育委員会を代表いただき、予定どおり開催することとしましたので、この場でご報告いたします。</p> <p>今回は、次第に記載のとおり、教育委員会で改訂を予定されている、四條畷市学校施設整備方針について、教育委員会の皆さまと市長の意見交換を行うため、お集まりいただいております。</p> <p>本日も、円滑な会議の進行にご協力をお願い申し上げます。</p> <p>なお、本日、マイクの使用はしませんが、会議録作成のためご発言内容を録音させていただきますので、大きめの声でよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、はじめに、市長から挨拶を申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>皆さま、こんにちは。公私お忙しいなかにもかかわりませず、お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>本日は、令和5年度第2回目の総合教育会議となります。</p> <p>教育委員会では、平成30年度策定の学校再編整備計画に基づく取組みから一定年数が経過し、学校施設の状況や社会情勢等が変化していることから、今般、学校再編整備計画を学校施設整備方針に統合し、新たな内容へと改訂されると聞き及んでおります。</p> <p>文部科学省では、令和5年6月に「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」をコンセプトに、新たな教育振興基本計画を策定され、このなかにも新しい時代の学びを実現する教育環境の整備が示されております。</p> <p>国の計画を踏まえた本市の考え、学校施設の実態などをご報告いただきながら、忌憚の無い意見交換ができればと思っておりますので、よろしく願い申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。</p>
<p>総合政策部長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、市長、以降の会議の進行をよろしく願います。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは、お手元の次第に従いまして進めてまいります。</p> <p>まずは、次第1 四條畷市学校施設整備方針の改訂について、説明をお願いしたいと思います。</p>

教育総務課長

本日の議題でございます四條畷市学校施設整備方針の改訂について、事務局よりご説明いたします。

本方針について、四條畷市教育振興基本計画の基本方針5「学びを支える教育環境の整備」を実現するため、今後の市立小中学校施設の老朽化対策や新たな環境整備等の方針として、令和4年9月に策定いたしました。

その内容としては、全国的な公共施設の現状に対しての国の動向や公共施設等総合管理計画の策定等、学校施設を含む公共施設全体の本市の経過を明記するとともに、現在の学校施設の状況を踏まえたこれからの学校施設整備に求められている考え方を記載しております。

本方針の改訂の趣旨としては、教育委員会として今後の学校施設の整備をどのような方針、計画で進めていくかを明確にするため、このたび本方針の改訂を行うものでございます。配付している本方針の改訂案に基づき、主な修正及び追記の内容を説明いたします。

1頁、2頁をご覧ください。第1章 基本的な考え方の2 方針の位置付けでは、本方針は令和4年1月に策定した四條畷市教育振興基本計画の基本方針5「学びを支える教育環境の整備」を実現するために策定することを本方針策定当初より記載しており、そこに公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画の一部として位置づけることを追記いたしました。

また、学校再編整備計画については、学校再編から一定年数が経過し、本市の学校施設の状況や社会情勢等が変化していることから、計画の趣旨を尊重しつつ、時代に即した内容に更新し、本方針に統合することを追記いたしました。

なお、学校再編整備計画における今後の検討事項としている小規模校の課題への対応や小中一貫型教育施設については、引き続き検討を行うことも併せて追記しております。以上の内容をもとに、本方針の位置付けの図式を修正しております。

4頁をご覧ください。第2章 学校施設の現状と課題の1 学校施設の現状では、学校施設の棟別の築年数や劣化状況は個別施設計画【公共施設】を参照する旨を追記しております。

5頁をご覧ください。2 児童生徒数の推移では、今年度以前の本市の児童生徒数の推移をグラフを使用し追記しております。

少しページを前にめくり、もくじをご覧ください。本方針の当初策定時は、第1章から第3章までの構成でございましたが、改訂案では国の長寿命化計画策定の手引き等を参考に、第4章から第6章までを追加しております。該当の内容は、10頁以降となります。

それでは、まず10頁をご覧ください。第4章 施設整備の水準等の1 整備の水準等では、学校施設の整備にあたり、単なる機能回復のみでなく、耐久性、機能性、環境性について、社会的な要求水準を考慮することを追加。

1 1頁をご覧ください。2 維持管理の項目・手法等では、学校施設の機能維持、長期的な有効活用には定期的な点検に基づく状況把握が必要であること、また「学校施設修繕計画」に基づいた計画的な修繕の実施を行うことを追記しています。

1 2頁をご覧ください。第5章 整備の実施計画の1 実施計画に向けてでは、学校の建築からの経過年数をもとに、建物の劣化調査を実施し、その結果を踏まえた整備手法を検討することを追記しております。また、整備手法の検討の際には、将来の年少人口の動向や財政状況を学校施設のあり方に反映させるため、改築中心から長寿命化への転換を基本とすることを追記しています。併せて、小規模校への課題の対応や小中一貫型教育施設の検討は別途、引き続いて調査・実施することも追記しています。

1 3頁をご覧ください。改築中心から長寿命化への転換のイメージを追記しています。図の下にございます米印では、長寿命化と長寿命化改修のことを記載しており、文部科学省の出展資料を参照に定義付けをしております。特に、長寿命化改修については、老朽化した施設を将来にわたって長く使用し続けるための整備のみならず、建物の機能や性能を現在の学校が求められている水準まで引き上げ、新しい時代の学び舎として時代に即応した教育環境に向上させるための整備も行うことが定められています。

1 4頁をご覧ください。第6章 方針の継続的な運用方針の1 学校施設整備方針の推進についてでは、本方針の推進における、教育委員会の担当所管における学校施設の継続的・定期的な管理だけでなく、学校や市長部局を含めた全市的な体制で連携すること追記しております。また、事業実施段階における技術職員との連携、民間事業者への委託の検討を追記しています。

以上、主な修正及び追記の内容でございます。本日の総合教育会議では本方針の改訂案について意見交換をお願いいたしたくよろしくお願ひ申し上げます。また、本会議での意見交換の内容を改訂案に反映させ、2月の教育委員会定例会で本方針の改訂案を上程する予定でございます。本日は、何卒よろしくお願ひいたします。

市長

ありがとうございました。ただいまの説明に対しまして、委員の皆さまから何か補足やご意見等ありますでしょうか。

山本教育長職務代
理者

教育委員会としましては、学校施設整備方針を令和4年9月に決めまして、今回、改訂ということで取り組んでおります。

令和4年9月に本整備方針をなぜ策定したのか、私の認識を述べさせていただきます。

従来、学校再編整備計画があり、それに則って整備をしてきました。これは、平成30年11月に策定したもので、内容については事務局から説明があったとおりです。そのなか、適正配置について、私の記憶では4点ほどがあったと思います。

四條畷東小学校、四條畷南中学校のそれぞれの統合、跡地の問題、それから四條畷南小学校の存続。これについては、義務教育学校を検討する。そして、同時に四條畷南中学校に防災拠点となるコミュニティ施設の設置を市長に具申するという、また、田原小・中学校の検討だったと思います。

このなかの重要な部分、義務教育学校あるいは小中一貫校の設置の検討というのが時間を要する課題であったと考えます。四條畷南中学校の跡地につきましては、市長部局のご尽力のおかげで、ある程度めどが立っていると思います。

学校再編整備計画の一番中心の部分は、校区再編がウエイトを占め、その部分がすごく大きかったと思います。割いたスペースも多いですし、長年にわたる課題でありましたので、校区再編の問題が中心でした。

もう1点が老朽化対策。適正配置、校区再編、老朽化対策という3つが課題であったかと思えます。

ただ、この間、一部はまだでありながらも、ほとんどの部分は一応、終了したとの認識を持っています。

ただし、公共施設については個別施設計画がありますので、その中で、我々の考えている学校施設の整備については、市域全体での検証が必要であり、そこに時間が取られ、なかなか次の方針が決まらなかった。その間、教育振興ビジョンから教育振興基本計画の策定へと進み、時間的にも学校設備の方針を決めなければならないということで、令和4年9月に学校施設整備方針を決めたと思えます。

そのあと、個別施設計画の改訂が急にありましたので、なかなかその対応ができずに、今回、それを踏まえた形での学校施設整備方針の改訂ということで、ここに至っているという認識を持っています。

私が考える学校施設整備方針の必要性につきましては、義務教育学校の検討等を含め、まだ学校再編整備計画で実施できてない部分

	<p>を早急にしなければならないというのが1点です。</p> <p>老朽化対策、これは学校再編整備計画で一定は行うのだと思いますけれども、長寿命化を含めた今後の施設整備について、はっきりしなければならない。さらに、コロナ禍を通じ、特に教育DX（データトランスフォーメーション）を推進していかなければならない、あるいはインクルーシブ教育など、多様な学びを保障しなければならないという、そういう新しい学びの実現が緊急の課題になっているというのが次の1点です。</p> <p>さらにこの間、市長からも説明がありましたように、国の施策が我々の予想を超えて進んでいる。この方針のなかに記載していますが、「新しい学びを実現する学校施設のあり方」、あるいは「令和の日本型学校教育の構築」という非常に重要な、将来の学びを保障するための国の施策が矢継ぎ早に出ていますので、そこを含め、本市の整備方針をきちんとしなければならないという必要性のなか、今回の改訂に及んでいるとの認識ですので、よろしく願います。</p> <p>なお、冒頭ありましたように、本日、教育長が不在ですけれども、昨年9月に学校施設整備方針を策定する段階から、教育長と密に討議を重ねてきておりますので、教育長の意向を十分汲んだお話ができると認識しています。</p>
市長	<p>ありがとうございます。これまでの経過も踏まえて、また、新たな観点についても詳細にご説明いただきました。</p> <p>職務代理者のお話にもありましたが、本市全体の公共施設を見たときに、学校施設が占める割合というのが相当あり、市として個別施設計画について議会の皆様と密に意見交換させていただくなか、様々な変化がございました。そういう意味では、教育委員会の皆さんにも大きな変化等が訪れるなか、今、お示しいただいたように、それらも踏まえつつ、様々内部でご議論いただいていたのだと思います。ありがとうございます。その他にいかがでしょうか。</p>
佃教育委員	<p>この整備方針のなかで特に私が強調したいのは、2頁、先ほど職務代理者もおっしゃいました、「小規模校への対応や小中一貫型教育施設の検討」というところです。</p> <p>小規模校にとらわれず、小中一貫教育や小中一貫型教育施設の有益性、メリットというものを、事務局が用意くださった学校視察でまざまざと見せていただき、感じるがありました。</p> <p>9月に奈良市内、一昨日には池田市のほそごう学園という立派な小中一貫校と義務教育学校を見せていただきました。</p>

規模的には支援学級を除いて2クラス規模の小規模校に近い学校でした。学校の落ち着き、教職員や子どもの姿、施設のみならず掲示物などの充実、学習環境の整備のうちメディアセンターとして作られた図書館など、本当に魅力的な施設内容に加え、教育委員会や市が支援された人的配置等もあるのかも知れませんが、学校が活気づいているのがまざまざと分かりますし、それがそのまま地域の活性化に繋がっている。

すべての学校でそのようなお話をいただきましたので、やはりこれは大きなヒントではないかということで、絵に描いた餅ではなく、こういったことを具体的に、エッセンスをどんなふうに四條畷市の小中学校に落とし込んだら良いのかということ、教育委員会としてしっかりと考えていかなければならないと思いました。

そのうえで7頁にある「地域コミュニティの核」という言葉ですが、私たちのイメージとしては教育大綱の絵です。昨日の大阪府のオンライン研修でも事務局が待ち受け画面として使用されていて「やるな」と感じました。知らず知らずに埋め込まれているあの姿が、本当に本市の理想になると信じ、私たちは教育をやっていかないといけないと思います。

今回の地震などでも、もちろん防災の拠点は学校であり、それ以上に学校を中心とした地域の教育力の向上は、今後、本当に進めていかないといけない内容だと思っています。

そのためのベースに小中一貫型の教育施設があったとして、中学校校区ごとにコンセプトをしっかりと持った教育拠点としての整備を、箱物から考えるのではなく、地域の特色を生かした教育施設のあり方という点から議論していくべきだと思います。

例えば、田原の小、中学校は本当に近くにあり、教育熱心な地域でもありますので、国の研究指定校制度などを活用し、最先端の教育を導入して、数年経ったら生駒からどんどん転入生が来るぐらいの勢いの学校にできないだろうか。例えばですが。

それから、四條畷中学校区もすでに校長先生方のリーダーシップによって、小中連携型教育をぐんぐん進めていただいていますし、コミュニティスクールも随分進んでいると聞いています。そういうことをもっと強化して広げられないか。

それに、四條畷西中学校などは体育館や立派なプールなど、施設が充実していますから、例えば部活動の拠点校にできないかとか。

四條畷南小学校は小規模特認校として、義務教育学校にするかどうかまだ議論がありますが、例えば不登校の子どもたちの豊かな居場所づくりを併設するなど、いろんな夢を描き、できることは何か

<p>市長</p>	<p>を議論していきながら、こういった方針を活かしていくことがすごく大事だと思いますので、地域を巻き込んだ特色づくりの上で、学校のあり方を考えるということを私たちはしていけないといけないと思いました。</p> <p>ありがとうございます。基本理念を拝見いたしますと、「子どもと地域の「学び」をつなぐ安全で魅力的な学校施設づくり」とあります。とてもわかりやすいと思います。</p> <p>「子どもと地域の「学び」をつなぐ」というところで佃委員がおっしゃったコミュニティを表していて、「安全で」では確実に施設を安全にしようっていう。「魅力的な」は、おそらく新しい学びとかに対応している文言だと思うので、この基本理念を読むだけで、3つの柱が一行、一文に込められているのがとてもわかります。</p> <p>そういう意味で、今、佃委員から、コミュニティみたいなもの考えた場合に特色があるとおっしゃっていただきました。</p> <p>ともすれば、学び、教育という観点においては、平等といえますか、どの学校においても、最低限の設備環境は等しく与えられるべきであるという考えと、地域やコミュニティという言葉が出てきた場合には、おっしゃるとおり差があるのは当たり前で、東部と西部の違いがありますし、西部でも場所によって違いがあります。</p> <p>特色を活かす、地域の良さを活かすというところと、教育の平等性というところのバランスが非常に難しいと感じられる部分ではないかと、今のお話を聞いて理解しました。</p> <p>ただ、せっかく、この基本理念「子どもと地域の「学び」をつなぐ」とお示しをされておられるので、ここを最初に持ってこられているという意味では、地域の良さ、特性を活かすような教育環境を整備していくことは、市民の皆さんも一定ご理解いただけるものだと思います。どうしても、等しくないというお声とのせめぎ合いはあると思いますが、そんなに大きな市ではないなかで、地域の良さを活かす教育環境だと思ってもらえることは、市民の皆さんにとっても理解が得られることだと思いますので、まだ方針を示されたところだと思いますが、今度、具体の議論に入っていく際には、特性を生かしていくことは、どんな案が教育委員会から出てくるのだろうと、今のお話を聞いて私もワクワクしたところです。</p> <p>ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。</p>
<p>尾崎教育委員</p>	<p>今回の改訂に伴い、教育委員になる前のことをあまり知らなかったもので、ちょっと勉強させていただきました。</p>

2015年に教育環境整備計画ができて、そこから学校再編整備計画という学校再編の内容が2018年に分かれて出てきて、過去には、整備計画が教育振興ビジョンや個別の方針のなかに含まれていて、本当は再編計画と整備計画という2つの計画が並び立って施策を進めていくというのが本来のスタンスだと思います。

ですが、先ほど職務代理のお話にもありましたように、学校の再編整備はこの間、整備ができたし、実は、学校の再編整備と施設の整備は密接に関わり合っていて、他市を見ましても、お互いの内容が相互に入り込んでいて、そうでないとできないわけですね。

今回、統合されるということは、四條畷市の今までの教育環境整備の流れからごく自然なことだと思います。これが今回の論点の1つめだと思いますし、そういう流れで今回また整備をされているというふうに理解しました。

2つめとしては、この方針のなかに、老朽化に対する対策と並び立って、機能向上、環境整備という2つの側面を絡み合わせながら学校施設を維持向上させていくと。そういうことが一貫して流れているわけですが、その際に、12頁にありますように、「従来の改築中心から長寿命化への転換を基本とします」。これが、今申し上げた、老朽化と機能向上、環境整備をうまくやるのに最も良い方法だと考えます。

13頁、文部科学省の資料ということですが、従前ですと、事後保全ということで、何か具合が悪いよって言ったら、それに対応していくという。それに対し、長寿命化の流れのなかでは、計画保全ということで、あらかじめ年数が来たら、こことここはやりましょうと一定の水準を保つことが、子どもたちの教育環境の保障という点で適していると考えます。

それから、財政の平準化とか、そういうことで申しまして、ちょっと古いかもしれませんが、個別の施設計画のなかに、平成29年から30年に調査をされ、公共施設全体が入っているのですが、長寿命化と改築を比較すると、26.6億円、長寿命化の方が安く済む。学校施設それぞれ以外はちょっと話が違いますが、私なりに計算してみました。長寿命化すると1平米当たりいくらかかるというのが書いてありましたので、それと改築と比べましても、やはりトータルでも長寿命化がやや安上がりであろうと。

こういうこともありますので、長寿命化にシフトを変えていくとう今回の改訂の大きな内容については、教育委員会としてもそういった方向で進めたいと思っております。

<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。今、おっしゃっていただいたなかで、この方針はハード、建物に関するのですが、冒頭に職務代理者もおっしゃっていただいたところで、いろいろと時代が変わってきて、求められる教育が変化している。ハード面のみならず、そのソフト面においても、教育予算として拡充していく余地があるということ考えた場合、尾崎委員がおっしゃっていただいたように、なるべく同じ安全性を確保できるのであれば、予算をハード面でかけすぎることなく、ソフト面も踏まえ、どれだけ子どもたちが享受できるメリットを増やしていけるかが重要になってくると思うので、今回の長寿命化という方針はすごくよく理解ができます。</p> <p>1点、事務局に確認させていただきたいのが、尾崎委員がおっしゃっていただいたように、施設の整備方針と学校の再編整備計画の両方であるいうなかで、私の理解ですと、学校再編整備計画では校区に関する内容が結構ページを取って掲載されていたと思います。</p> <p>整備方針と再編計画を統合し、方針だけが残ると思いますが、保護者の方が校区の現状とかを知りたくなったりした場合、明記されている計画や方針は残るか、なくなってしまうかということですが。</p> <p>教育振興基本計画などの上位計画等に記載があるなら良いのですが、校区についてアクセスできなくなってしまうのかと思っております。普通、調べようと思うと、大体は再編整備計画を見て確認すると思っております。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>計画そのものとしては、なくなってしまう部分になりますが、市民や保護者の方が確認する場合、ホームページに地域の通学区域が示されておりますので、そこで確認していただくこととなります。</p>
<p>市長</p>	<p>わかりました。なぜこんな話をしたかと言いますと、地域と市長の対話会で各地域を回らせていただいているなか、今、岡山自治会と塚米自治会が同一地域内で2つの小学校にアクセスする現状になっていると理解しています。</p> <p>ご存知のとおり、岡山自治会は1つの町ぐらいの大きさがあるので、2つに分かれてもあまり影響はないのですが、塚米自治会はすごく大きいわけでもないのです。そうしたなか、今、2つの小学校に通っている問題。既にご理解いただいていると思っておりますが、小学校等の役が2倍当たってくる問題が起こっています。</p> <p>それを前回の対話会、前々回の対話会で、地域の方針は未だ決めておられませんが、課題の1つにあげられていました。</p> <p>統合の時には、塚米自治会として、四條畷小学校と四條畷南小学</p>

<p>河田教育委員</p>	<p>校と決めただけでも、今後、自治会の人口が減少したり、子どもや保護者の数が減ってきた時には、一つの小学校にという校區の話は教育委員会とさせていただく必要があるかもしれないとおっしゃっています。</p> <p>その気持ちは十分わかるので、そういった議論があったときに、既存の方針、計画に一切記載がない場合、どういうふうに教育委員会に話を持ちかけていったらいいのかみたいなことが起こり得ると思ったので、今、確認しました。ウェブサイト等でしっかり現状が確認できるということであれば、大きな問題ではないかなと思いましたが、ありがとうございます。</p> <p>その他、いかがでしょうか。</p> <p>先ほどの佃委員がおっしゃられたことと似通った内容ですけれども、私もこの間、他市や他県の小中一体型の校舎等を見せていただいて、どこの学校も地域の意見を取り入れて作られているなと思いました。</p> <p>ある小中学校では、地域の方が自由に入れる教室みたいなのがあって、そこで調理ができたたり、地域活動にも使えて、すごく学校と地域が結びついていて、とてもいいなと思いました。</p> <p>私は今、田原地区で地域の教育力の向上に努めることを目的とした活動をしています。小中学校の先生、PTA、子ども会の方が15団体ぐらい集まって、地域の子どもたちと自治会の人と一緒に協力しながら学校をどういうふうにしていくのか、地域をどう作っていくのかを考える取組みです。</p> <p>PTAにしても子ども会にしても、保護者の数が減ってきているということもさることながら、保護者自身が非常に忙しく、なかなか平日の昼間に子どもたちを見るときか、学校の手伝いをするっていうのが難しくなっているなか、地域の人に、子どもたちの教育だけでなく、地域の教育ということに興味を持ってもらうには、私たちの活動をどのようにしたらより効果的になるのかっていうことが自分のなかの1つの課題です。</p> <p>学校施設整備方針のなかに、今、私が持っている課題や問題点を連携して考えて、そういった意見を取り入れた学校づくりができたらいいなと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。これは学校にとどまらず、市役所にも言えることですが、今、過渡期で、おそらく新しい学校を建てられる</p>

ところについては、まさに求められる形というのがあると思うのです。おそらく、5年、10年すると、デジタルを含め、いろんなあり様に変化をしてきて、今、最先端であっても、またその時の最先端が出てくる。その変化の過渡期にあたるのではないかと思います。

そう考えた場合、どれだけ最先端の綺麗な箱だけがあっても、時間の経過とともに遅れたものになっていく。今、河田委員がおっしゃっていただいたのは、立派な箱にとどまらず、中身も含めて、地域の人と歩んでいけば、いつまで経っても地域に一番求められているものになるということだと思います。非常に核心をついたことをおっしゃっていただいたと思います。

とはいえ、言うことと実行することの難しさはあるのだと思います。教育委員の皆さん、事務局の皆さん、地域の皆さんが、どういうふうに手を携え、学校施設を考えていくのかというのは、今後、非常に重要な課題になると思いますし、我々市長部局としても、何かお力添えできるところがあるのであれば、一緒に進めていければと思います。

せっかくなので朗報といいますか、お伝えをしておきます。昨年の12月に、国立社会保障人口問題研究所という人口推計を出しているところで、平成30年度の人口推計を令和5年版に更新されました。本市の2050年の人口推計は、平成30年度推計版ですと、今の55,000人から37,000人ぐらいになるっていうものでした。これが上方修正されまして、41,000人と、4,000人ぐらい平成30年度推計から上振れしている状況です。この間の社会増もあり、そういうところを推計に反映してもらったのではないかと思います。

市長部局もそうですが、財政運営上、組織運営上、悲観的に、要はすごく減ってしまった場合のリスクも踏まえて運営するものの、まちが目指すビジョンとしては、やはり持続可能なまちづくり、人に移ってきてもらう、地域が活性化して、発展していくっていう思いも同時に持つというのが非常に重要だと思います。

ただ、目の前では、保護者の皆さん、子ども達が、これはもう日本全体として減っていくのは当たり前なのですが、先ほど、佃委員からもふれていただきましたが、だからこそどう魅力的にして、選ばれていくのかっていう観点は、常に持ち続けたいと思っています。

そういう意味で、河田委員におっしゃっていただいた形、「地域の人と一緒に」というのが絶えずブラッシュアップされるのが選ば

<p>尾崎教育委員</p>	<p>れるまちの1つの重要な条件だと思います。</p> <p>繰り返しになりますが、それを行うにはどういうふうと一緒に考えていけばいいのかっていうのを、今後も引き続き、皆さんとも意見交換させていただきたいと思います。ありがとうございます。</p> <p>その他いかがでしょうか。</p> <p>先を見通すことの難しさにあって、私もいくつか事例を知っておりますので、少しお話をさせていただきます。</p> <p>1つは、京都市立の御所南小学校です。30年ほど前に、5つの小学校が小規模校になり、統合して作った学校です。</p> <p>当時では珍しく、廊下側の壁がなく、中心になるところにオープンスペースを作っているのです。</p> <p>当初は4クラス編成ぐらいで、それでも余裕をみていました。ところが、文科省の指定を次々に受け、コミュニティスクールも早い段階で実践し、週刊誌に学力日本一の学校と書かれましたので、そんなこともあって児童数が急激に増えました。1.5倍以上です。4クラス想定が6、7クラスということ。小中一貫教育についても最も早く実践しました。中学校は御池中学校での2小1中、御所南小学校、高倉小学校で。研究会をしても、1,000人ぐらいの先生方がおいでになるほどで、その時、オープンスペースは役に立ったのですが、結局、教室が足りなくなり、小中一貫教育とうまくやって、小学6年生が御池中学に移動します。それはそれで中学校の先生が関わるなど成果を上げます。でも、それでも教室が足りなくなり、統合したのに分離して、御所東小学校を作りました。</p> <p>見通しというのは非常に難しい。今、市長が言われたように、人口増になるということは非常に良いことですが。</p> <p>石川県白山市の小学校に行ったことがあるのですが、木造で校舎を作り、新しい教室の廊下に壁をきっちり作って、その代わりに3教室分ぐらいのオープンスペースを作っているのです。子どもたちはそこで自由に遊んでいました。</p> <p>御所南小学校の時に想定していなかったのが外部侵入者の問題です。それから避難所としての機能。オープンにしてしまうとそれが難しい。そういったところが、白山市の小学校では非常にうまくやられていて、学級増にも対応できる。</p> <p>昔、田原小学校では、今の多目的室を4つに区切って教室にしていました。東校舎ができると、多目的室として整備され、こういう工夫ができるのだと思いました。</p> <p>20年ほど前に、アメリカの学校視察をしたこともあるのです</p>
---------------	---

が、ICTは当たり前で、随分と進んでいると感じました。20人ぐらいの子どもたちがいるのですが、5つぐらいのグループに分かれて勉強して、また戻ってくる。

なぜかという、移民のお子さん、英語が全くしゃべれない子どもから段階があって、それぞれに分かれて英語を教えなければならない。そうすると、小さな教室が必要になってくる。

もう1つは、「No Child Left Behind Act」といって、日本では「落ちこぼれ防止法」という誤った訳をされたのですが、そういうお子さんがいるので、しゃべることよりも読解力の方に問題がある。「リーディング・ファースト」ということで、4つのリーディングのプロセスをやるために、子どもたちを床に座らせて、先生が指導する。そうすると、床をどういうふうにするか、机をどれぐらい配置するか、そういうことが問題になってきて、結局、教育内容と施設が非常に密接に関わってくる。

それに対応するというので、想定しながら行っていかなければならないのですが、月曜日に行った、ほそごう学園で施設担当者の方にいろいろお話をお聞きしてきました。非常に工夫されて、子どもに寄り添っている。なぜできたのかという、先生方の意見をよく聞き、いろんな情報を収集したと。

ということで、ぜひそういうところに力を入れていただいて、1つは人員の問題。教育総務課でいくのであれば、人員を増やしていただきたいし、本格的に長寿命化計画と教育内容をマッチングさせながら四條畷市独自の教育を進めていくということであれば、新たな課として、指導主事や施設等に見識のある方も入って進めていただけると施策の見通しに非常に安心感が持てるのではないかと思います。これは市長さんをお願いをしたいことです。

市長

ありがとうございます。おっしゃっていただいた通りで、今、市長部局の方ですと認定こども園。市立忍ヶ丘あおぞらこども園が、個別施設計画の中で現地建替えに決まり、先般の市議会で補正予算として相当多額の予算を認めていただきました。そのなかで重要視しているのが保育士の皆さんの意見です。しっかりと保育士さんの意見を集約し、現場の保育さんが思う「こういう子ども園だったらいいな」という内容で建てていくというのが1つコンセプトにあります。

今、尾崎委員がおっしゃったのは全くその通りかなと。やはり、働いておられる方が一番よくわかるわけであって、それを教育委員会の皆さんがどう取り入れていくのかということだと思います。

<p>山本教育長職務代理者</p>	<p>そのうえで、こちらの話は子ども政策課が頑張ってくれていますが、おっしゃっていただいた組織体制でいきますと、ご存知の通り、学校教育、社会教育がこれだけ多様化してきているなか、1人の部長がすべてを把握し、広くみていくのは難しいであろうという組織の検証を経て、令和6年度から学校教育、社会教育の2部制とする体制に変わります。</p> <p>今おっしゃっていただいた新しい課ということではありませんが、方向性としては、そういう意図があります。今後、これを建て替えていく、これを長寿命化するとなった場合には、必要に応じた体制、以前ですと教育環境整備室があったと思いますが、そういう形は時々に応じて検討できますし、機構の委員会も絶えず開けます。また、教育委員会内だけの話であれば、教育委員会内で決められますので、積極的に時々に応じた議論をしていく必要があると思います。ありがとうございました。</p> <p>内容的に尾崎委員とよく似通っているのですが、方針の第4章について1点です。</p> <p>先ほど佃委員も言われたように、四條畷中学校をみた時に、四條畷中学校と忍ヶ丘小学校の連携はよくできていると思います。</p> <p>1つの要因は、両校のいろんな教育、校長先生をはじめとした先生方の力によるものですが、小中連携棟という両方をつなぐパイプの建物があり、その部分がすごく大きかったのではないかと思います。</p> <p>そういう意味でいうと、学校という施設と教育内容が結びつかないと、教育内容を忘れて施設を作っても意味がありませんので、そこをうまくドッキングしないといけないと思っています。四條畷市の中では、四條畷中学校と忍ヶ丘小学校の小中連携棟がすごく良い例だと思います。</p> <p>長寿命化を図って改修等をする場合、既存の学校体制で機能改善をするだけではなく、新しい学びに対応したものを想定しなければいけないと思います。第4章では、そここのところで「耐久性」、「機能性」、「環境性」と書いてあるのだと思います。7頁の「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」という文部科学省の文章のなかに、新しい時代の学びを作るといふか、各市町村が作りなさいというふうになっていますので、多分、国としてもそういう新しい時代の学び、そういうコンセプトを考えているのだと思います。</p> <p>この間の学校訪問のなかで、生駒の方で省エネタイプ、いわゆるZEBというゼロエネルギービルの発想で学校を作っているところ</p>
-------------------	---

<p>市長</p>	<p>もありました。</p> <p>本市も考えている、地域連携の共創空間を作ろうという視点が、今後、大事になってくると思います。それが1点で、第6章にも書いてありますが、市長も言われた通り、整備方針を推進していくには当然、教育委員会だけでは無理で、ヒト、モノ、カネというのが重要になってくると思います。</p> <p>そういう意味で言うと、全市的な体制を作って、課題を共有して欲しいと思いますし、市長部局のいろんな部署との連携が個別施設計画にもありますので、特にそういうところの整合性を図る必要があると思います。</p> <p>最後にもう1点、先ほど尾崎議員も言われましたけれども、教育委員会の体制強化がいるかなと。今、基本方針を作っています。基本方針だけでしたら事務局の方がすごく努力をしてくれたのですが、具体の修繕計画であるとか、実施計画を実行するのは、今の人員ではとてもできないだろうと思います。</p> <p>市長が予算編成方針を書かれ、職員が実行する。職員一人ひとりが成長していくことが市役所の成長につながる。一人ひとりが自分の成長を自覚し、四條畷市に勤めてすごくよかったという、こんなことができるのだという、そういう職員がいるということが大事だと書かれていて、全くその通りだと思いました。そのあとの人事戦略基本方針も読ませていただいて、やっぱり市にはこういう人が必要なのだと本当に思いました。</p> <p>本年度策定予定の読書活動推進計画は、従来とは違う形の計画として取りまとめられました。今回の方針もそうですけど、担当者はすごく自己啓発力に富んでおられ、我々もこれを見ないと明示しないような国の施策を含め、ものすごく研究されていて、そういう人たちが四條畷市にいるのだと思っています。</p> <p>一方、自己啓発というのはすごく大事で、そういう自己分析できる人を探ってもらって、もちろんOJTも必要だと思いますが、そのOJTにきちんと耐えられる人材の採用というのがすごく大事なことです。そういうことを考えていただいて、加えて、市長が来られる前のあたりから教育委員会の人材、人事がどんどん縮小していった経緯がありまして、それが増えてきつつあるのですが、この計画を推進していくためには、ぜひそういう人員配置をお願いしたいと考えます。</p> <p>ありがとうございます。今、お示しいただきました通り、職員の研修予算は、これまでの何倍という単位で確保しています。大阪府</p>
-----------	---

の研修などもあるのですが、学びや一人ひとりの成長こそが、施策に繋がってくると、そういう思いです。

そういう意味でも、先ほど尾崎委員に申し上げた形にはなりますが、令和6年度から2部制になるということは、対外的にも1つ大きなメッセージになると思います。

かつては本市も2部制でやってきたなか、担当部長の1部制になったものが、また2部が変わる。学校教育にも社会教育にもさらに注力していくのだということで、当然、部長は2人になるわけで、そういうことでいきますと、メッセージとして非常に意味があることだと思えます。

あとは、実務をまわしていく上で、ご存知の通り人口が上振れしているとはいえ全体的に減ってきているなか、職員の絶対数をいたずらには増やせないという問題が当然あります。

いわゆる高齢福祉であったり、障がい福祉であったり、セーフティネットとして非常に重要な部分、子どもの虐待等が減っていかないなか、どういう対応をしていくのかという部分、あるいは今回の能登半島の地震に代表されますけれども、インフラの長寿命化という部分、都市整備部門が担う老朽化対策が今後、非常に重要になってきています。市役所全体として、全部門で人員体制の強化が必要になっていて、でも人口が減っていくなか、職員の絶対数は増やせないというのが非常に難しいジレンマと申しますか、ご理解いただけたらと思います。

それをどう解決していくのかと言いますと、働き方改革、通常行っている事務のなかで見直せる部分がないか、時間かかってしまっていること、続けているけれども本当にやり続けるべきものなのか、こういうものを見直していく。あるいは電子化できるものは電子化していく。そうすることで職員一人ひとりが真に価値ある仕事に向き合える時間を増やしていくことが非常に重要になってくると思います。

また、将来的に職員の数は増やせないけれども、この期間、これぐらいの業務量の増が見込まれるので、こういう人員増と申すことは当然に議論できます。ただ、全体として業務量が増えそうという人員配置は全部署になってしまうので難しい。

例えば、この学校施設再編はこの期間内で、こういう業務量が発生するっていうのを具体的にお示しいただけると、人員体制や兼務を機能させていただきやすくなると思います。

ただ、いずれにしても、今回で少なくとも部長級は倍になりますので、市としてはかなり大きなものだと申すことを理解いただ

<p>市長</p>	<p>けたら嬉しいと思います。ありがとうございます。 その他いかがでしょうか。すみません、予定時間が上回りつつあるかなと思うんですけども、よろしいでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>ありがとうございます。様々ご意見いただきましたありがとうございます。</p> <p>それでは次第の1 四條畷市学校施設整備方針については終わらせていただきまして、2 その他に移りたいと思いますが、何か委員の皆さんからございますでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>よろしいですか。大丈夫ですか。</p> <p>(意見なし)</p>
<p>市長</p>	<p>事務局からは何かございますか。大丈夫ですか。</p> <p>(意見なし)</p>
<p>市長</p>	<p>もしなければ以上をもちまして、令和5年度第2回総合教育会議を閉会とさせていただければと思います。 本日はどうもありがとうございました。</p>